

4. 火災の実態

1. 火災の概要

平成18年中の火災は、出火件数2,310件、損害額4,327,438千円、死者数77人、建物焼損床面積48,412㎡、建物焼損表面積3,730㎡、林野焼損面積765a、焼損棟数1,738棟、り災世帯数1,254世帯、り災人員2,958人となった。

(火災の状況)

区 分	平成18年	平成17年	対前年増減数	増減率
	①	②	③ = ① - ②	$\frac{③}{②} \times 100$ (%)
出火件数	2,310	2,824	△514	△18.2
建物火災	1,288	1,490	△202	△13.6
林野火災	51	107	△56	△52.3
車両火災	238	301	△63	△20.9
船舶火災	6	5	1	△20.0
航空機火災	0	0	0	0
その他火災	727	921	△194	△21.1
焼損棟数	1,738	2,048	△310	△15.1
り災世帯数	1,254	1,315	△61	△4.6
り災人員	2,958	3,411	△453	△13.2
焼損面積				
建物床面積 (㎡)	48,412	62,677	△14,265	△22.8
建物表面積 (㎡)	3,730	6,004	△2,274	△37.9
林野 (a)	765	1,179	△414	△35.1
損害額 (千円)	4,327,438	9,338,705	△5,011,267	△53.7
死者 (人)	77	109	△32	△29.4
負傷者 (人)	375	445	△70	△15.7

※ H7.1.1 から建物焼損面積について、建物焼損床面積、建物焼損表面積に区分した。

また、平成18年中の火災の発生を一日当たりで見ると、出火件数6.3件、損害額11,856千円、死者数0.21人、建物焼損床面積132.6㎡、建物焼損表面積10.2㎡、林野焼損面積2.1a、焼損棟数4.8棟、り災世帯数3.4世帯、り災人員8.1人である。

2. 出火件数

総出火件数は、2,310件で前年と比べて514件減少している。これを火災種別で見ると次のとおりである。

種別	建物	車両	林野	船舶	航空機	その他
18年 (2,310件)	1,288件 (55.8%)	238件 (10.3%)	51件 (2.2%)	6件 (0.3%)	0件 (0.0%)	727件 (31.5%)
17年 (2,824件)	1,490件 (52.8%)	301件 (10.6%)	107件 (3.8%)	5件 (0.2%)	0件 (0.0%)	921件 (32.6%)

- (注) ア 建物火災とは、建物又はその収容物が焼損した火災をいう。
 イ 林野火災とは、森林、原野又は牧野が焼損した火災をいう。
 ウ 車両火災とは、原動機によって運行することができる車両及び被けん引車又はこれらの積載物が焼損した火災をいう。
 エ 船舶火災とは、船舶又はその積載物が焼損した火災をいう。
 オ 航空機火災とは、航空機又はその積載物が焼損した火災をいう。
 カ その他の火災とは、アからオまでに掲げる火災以外の火災をいう。

(1) 月別出火件数

出火件数を月別にみると、3月が342件と最も多く、2月248件、1月244件と続いている。

(2) 出火率

出火率（人口1万人当たりの出火件数）をみると県平均3.8件となっている。

3. 損害額

火災による損害額は4,327,438千円で前年比5,011,267千円（53.7%）減少した。また、県民1人当たりでみると717円（前年1,553円）、1日当たりでは11,856千円（前年25,585千円）、1件当たりでは1,873千円（前年3,307千円）となった。

4. 出火原因

出火件数を出火原因別にみると、次のとおりである。これは例年と同様の傾向である。

た き 火	放火・放火の疑い	た ば こ	こ ん ろ	火 遊 び	そ の 他
118件 (5.1%)	532件 (23.0%)	235件 (10.2%)	261件 (11.3%)	83件 (3.6%)	1,081件 (46.8%)

5. 死傷者の実態

(1) 死傷者数

火災による死者は77人、負傷者は375人で前年に比べて死者は32人（△29.4%）、負傷者は70人（△15.7%）の減となった。

(2) 火災種別にみる死傷者数

火災種別でみると建物火災が死者60人、負傷者336人でそれぞれ全体の77.9%、89.6%と大部分を占め、林野火災が死者0人、負傷者1人（0%、0.3%）、車両火災が死者3人、負傷者10人（3.9%、2.7%）その他の火災が死者14人、負傷者28人（18.2%、7.5%）となっている。

(3) 月別の死者数

死者を月別にみると4月が13人と最も多く、次いで8月が11人、2月が9人、1月が8人となっている。

(4) 年齢別の死者数

死者を年齢別にみると次のとおりであり、61歳以上が全体の4割以上を占めている。

区分	0歳～20歳	21歳～30歳	31歳～40歳	41歳～50歳	51歳～60歳	61歳～70歳	71歳以上	不明
件数	3	1	10	11	14	19	18	1
割合	3.9%	1.3%	13.0%	14.3%	18.2%	24.7%	23.4%	1.3%

(5) 死因

死者を死因別にみると自殺24人（31.1%）、一酸化炭素中毒・窒息22人（28.6%）、火傷によるもの23人（29.9%）、その他・不明8人（10.4%）となっている。

6. 火災種別ごとの出火件数及び損害額等

火災種別ごとの出火件数及び損害額は次のとおりである。

火災種別	件数	損害額千円	焼損面積	焼損棟数	り災世帯数	り災人員
建 物	1,288 (△13.6%)	4,063,947 (△54.6%)	床面積 48,412 m ² (△22.8%) 表面積 3,730 m ² (△37.9%)	1,738 (△15.1%)	1,254 (△4.6%)	2,958 (△13.3%)
林 野	51 (△52.3%)	4,425 (△13.7%)	765 a (△35.1%)	—	—	—
車 両	238 (△20.9%)	167,830 (△12.3%)	—	—	—	—
船 舶	6 (△20.0%)	116 (△98.5%)	—	—	—	—
航空機	—	—	—	—	—	—
その他	727 (△21.1%)	104,480 (△14.0%)	—	—	—	—
(爆発)	10 (25%)	70,362 (1.65%)	—	—	—	—

() 内は対前年比

※ H7.1.1 から火災の定義に爆発現象が加わった。爆発の件数は出火件数の内数。損害額は外数。
H7.1.1 から建物の焼損面積について、建物焼損床面積、建物焼損表面積に区分した。